

南陽市自分ごと化会議 2025 第1回 議事概要

日時	2025 年 10 月 18 日(土)9 時 00 分～12 時 00 分
場所	赤湯公民館(えくぼプラザ)大会議室
コーディネーター	神奈川県逗子市 福祉部長 石井 聡

・委員意見 ➡市役所(回答・補足等) ➡コーディネーター(補足等)

概 要
【委員自由発言】 ・リサイクル率とは何か。 ➡求め方(式):資源+ペットボトル+プラスチック/可燃ごみ+不燃ごみ+資源+粗大ごみ+ペットボトル+プラスチック ・ペットボトルキャップの処理がわからない。どこで回収しているのか。 ➡環境係で受付している。 ・市役所まで行くのは大変。公民館での回収を検討してほしい。 ・リサイクル率が低いことに驚いた。原因はなにか。 ➡原因は不明。布類を可燃ごみに入れている、飲食店が多いなどの要因が予測される。 ➡逗子市の場合、リサイクルされたものは道路の舗装に用いている。 ・降雪などの環境や生活の違いから、買い物にも違いが出ているのではないか。(ごみの種類の違い) ・ペットボトルごみが多い。つぶしても元に戻るため嵩張る。長く家に置いておきたくない。だから、可燃ごみに出す人がいるのではないか。月 2 回の回収では少ないのではないか。 ・スーパー等で資源ごみを回収している。ボトルのみ回収できて、キャップのみ残るため処理に困る。休日にはペットボトル回収機の前に 5 人くらい並んでいて、30 分以上待つこともある。ポイントがたまるからやっている。ダンボール回収は常にいっぱい。回収が追い付いていないのではないか。 ➡逗子市では、燃えるごみは有料の指定袋(※10枚セット、5ℓ100円、10ℓ200円、20ℓ400円、40ℓ800円)だが、ペットボトルやプラスチック製品は指定されておらず、透明又は半透明の袋に入れば良い。市民は、できるだけお金がかからないように分別している。 ・新聞紙とチラシ等の古紙は、販売店が回収している。リサイクルのお礼としてトイレトペーパーをもらっている。 ・新聞は電子購読している。 ・納豆の容器は可燃ごみに出してしまっている。 ・学校では地域貢献活動をしている。小学校ではペットボトルキャップとプルタブを集めて、ワクチンや車いすに変える取り組みをしていた。高校ではコンタクトケースを集めている。 ・小学校の給食では、残飯を汁物容器に入れていたが、その後の処理はどうなっているのか。 ➡業者に委託している。企業系のごみはクリーンセンターには出せないの、配布資料には反映されていない。 ・現在のルールが分別しにくい環境を作っているのではないか。生活スタイルが変わればご

みも変わる。

- ・ルールを厳しくすると移住者が減ってしまうのではないか。
- ・生ごみは畑に出すものだと思っている。
- ・生ごみ処理機を導入する際、市から補助は出るのか。
- ➡コンポストは上限3,000円、電気式生ごみ処理機は上限20,000円を補助している。
- ・市から補助が出ていること知らなかった。もっとアピールすべきではないか。
- ・電気式生ごみ処理機を導入した場合、電気代いくらかかるのか、どのくらい得するのかを明確に。最終的なパリパリになる状態を動画にしてイメージしやすいように広報すれば、導入の意欲が湧くのではないか。
- ・パリパリになったものは再利用できるのか。
- ➡肥料になる。畑などがなければ可燃ごみへ。
- ・やるか、やらないかは関係なしに、知識があることが大事。今は SNS の利用者が多いため、SNS を活用した広報をしてみてもどうか。
- ➡ホームページや市報で広報している。違った形でアピールできないか検討する。
- ➡市民に苦勞かけてはお得ではない。行政・市民の両方が得することが大事。
- ・汚れているプラスチック製品はどうしたら良いか。
- ➡回収されたプラスチック製品は、手作業で分別される。汚れているものは可燃ごみへ移される。汚れが取れないものは可燃ごみへ。

【委員感想】

- ・今回会議に参加して、電気式生ごみ処理機を購入したいと思った。今日からできることがたくさん話に出た。
- ・2人暮らしなので、燃えるごみの袋にまだ入るからと、そのごみの袋をいっぱいにした方がお得ではないかと思い、分別せずに入れていた。生ごみは水分が含んでいるので焼却するにもお金がかかる。処理機を使えば格段とごみの量が減ると分かった。

【次回会議について】

- ・本日の会議でごみに関する意識がちょっと変わったと思うので、次の会議までの1か月間で何か気づいたことがあればメモしてほしい。
- ・家の中でのごみ出し担当に話を聞いてみてほしい。
- ➡次回、考えていることや何かアイデアがあれば共有していただきたい。